

三鷹市高齢者センターけやき苑 認知症対応型通所介護
平成 30 年度 下半期 運営推進会議

1. 日 時 平成 31 年 3 月 6 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 00

2. 場 所 けやき苑

3. 参加者 7 名

- ・地域住民代表 (民生委員)
- ・知見を有する者 (小規模多機能型居宅介護 管理者)
- ・地域包括支援センター (大沢地域包括支援センター)
- ・けやき苑職員 (管理者、生活相談員 2 名、ソーシャルワーカー)

4. 議事内容

1) 主催者挨拶

- ・けやき苑認知症対応型通所介護 (以下「けやきの会」) を先駆的・研究的に実践、運営しているが、開設以来続いている「野崎保育園との交流会」を中心に、地域との交流について、本日は進めていきたいと思う。

2) 交流会について (スライド参照)

- ・野崎保育園との交流は、けやき苑開設以来、継続している。
- ・年度初めに、保育園とけやき苑の職員が打ち合わせを行い年間計画を立てている。
- ・けやき苑職員、保育園先生との交流にもなっている。
- ・けやき苑利用者の状況に大きな変化はないが、保育園は毎年園児が変化しており、打ち合わせにおいて、交流会の活動内容を検討している。
- ・年間を通じて複数回会うことができるため、双方に緊張感は少なく、和気あいあいとした雰囲気で行うことができている。
- ・昨年度の交流会を画像で紹介する。

3) 野崎保育園「卒園を祝う会」見学

- ・2 階リハビリ室で開催中の「卒園を祝う会」を見学する。
- ・お祝いカードを利用者から園児に渡す場面をご覧になる。

4) 事業実績報告 別紙①

- ・ 下半期稼働率、約 62.7%、登録 25 名、平均 85.6 歳 介護度の変化について説明。

5) 事故ヒヤリハット報告 別紙②

- ・ 下半期事故ヒヤリハット報告。転倒 4 件、物損 1 件。

(委員) 半年間での転倒事故件数が 4 件なのは、少ない方ではないか。
職員の連携がうまくいっているのではないかと思う。

6) 質疑応答・意見交換等

(委員) 交流会については年間計画をしたうえ、一年を通して関りをもっているので、関係性ができているようだ。非常に良い取り組みだと思う。

(職員) けやきの会では、保育園の他、学童や実習生など、異世代の交流も多い。その人のために何かしてあげたいという気持ちが強く出ていると思う。利用者にとって良い取り組みとなっている。交流会で子供たちと接することで、職員がどう関わっても引き出せない表情が出ている。落ち着いた利用者でも、子供たちが来ると落ち着いて参加することができる、穏やかな表情を見せてくれる、発語も増えるなど、子供にしか引き出せない効果を感じている。今後も交流会は重要と考えている。

(委員) ただの交流会でなく、利用者さんの役割を持ってもらって実施されていることがいい。

(委員) 交流会を長く続けていることで、皆さん上手に、和気あいあいとできていると思う。

(職員) 子供たちが大きくなって、けやき苑と再度つながってくることも多くある。
学生として再度けやき苑に来たり、ボランティアとして参加したり、地域とつながっていることを感じる。地域とのつながりも大事にしていきたい。

(委員) 学童の生徒は何時頃に来苑するのか？

(職員) 夕方になるため、利用者が帰宅する前の時間帯での交流となっている。

(委員) 交流会における、けやきの会への理解がさらに深まった。
本日の内容も広く伝えていくべきと感じた。

(委員) 利用率の面から、ショートステイ先はどのような場所があるのか？

(職員) 今まででは特養中心だったが、有料やショートステイ専門の施設も増えてきた。
家族のスケジュール調整も大変である。

(委員) けやき苑の職員配置は安定しているのか？

(職員) 充足している状況。手厚い配置人数になっている。

(職員) 今後の課題としては、やはり利用率の向上となる。
地域の貴重な資源として、一人でも多くの方にサービスを提供したいと現場の職員も
考えている。その効果をケアマネや地域にも発信していきたい。

(職員) 新年度も委員を継続していただきたい。

(各委員より、了承を得ている)

本日はありがとうございました。

平成30年度 下半期 三鷹市高齢者センターけやき苑 認知症対応型通所介護事業実績等

【利用者状況（平成30年9月～平成31年2月）

(一日の平均利用人数 及び 稼働率)

	延べ人数					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
要介護1	27	14	16	15	18	19
要介護2	38	50	54	50	51	52
要介護3	19	40	34	37	35	40
要介護4	14	17	12	11	9	12
要介護5	67	68	63	69	58	49
一日平均人数	7.2	7.3	7.3	7.9	7.4	7.5
稼働率 (定員12名)	59.8%	60.6%	65.3%	65.9%	62.0%	62.3%

(新規受け入れ)

新規利用	4
登録変更	2
合計	6

(利用者年齢)

65～69歳	1
70～74歳	0
75～79歳	4
80～84歳	3
85～89歳	11
90～94歳	5
95～99歳	1
100歳～	0
平均	85.6歳

(通所回数)

1回	11
2回	5
3回	4
4回	4
5回	0
6回	1
平均	4.16回

(利用終了)

逝去	2
入所(特養・老健)	0
その他(他デイに変更)	1
合計	3

(介護度別)

	利用実人数					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
要介護1	3	2	3	3	3	3
要介護2	5	6	7	6	5	6
要介護3	3	4	3	4	4	5
要介護4	3	3	3	3	3	3
要介護5	8	8	8	8	8	7
合計	22	23	24	24	23	24

(曜日別登録数 平成31年3月1日現在)

	月	火	水	木	金	土
曜日別登録数	8	10	10	12	9	7
要介護1	1	1	0	1	0	1
要介護2	3	3	1	5	1	2
要介護3	2	2	3	1	3	1
要介護4	0	0	2	1	0	0
要介護5	2	4	4	2	5	3

※登録数は計25名(男性6名、女性16名、うち入浴利用者10名)

※ショートステイ利用(毎月定期的に利用するのは10名)

平成30年度 下半期 (H30.9月～H31.2月)
認知症対応型通所介護 事故・ヒヤリハット報告

◆事故・ヒヤリハット

発生日時	性別	区分	発生状況	原因分析	再発防止策
10/15 14:00	男性	事故 (転倒)	【けやきの部屋】 肘掛け椅子に座って傾眠していたご本人。他利用者はテーブル席で作業をしていたが、その間にご本人は熟睡、椅子からすべり床にしゃがみ込んでいた。	肘掛け椅子を使用していたことで職員も油断があった。作業中の利用者それぞれから話を聞き取っていたため、本人から目が離れ、見ている職員がいなかった。	利用者に対し、職員の目が届く位置にいることを常に心がける。利用者が傾眠している時は、肘掛け椅子に座っていても前方に倒れる可能性があるため目を離さないようにする。必要に応じて机を使用して安全を確保する。どの場所でも予測できない動きが想定されるので見守りが必要なことを再確認した。
11/15 14:00	女性	事故 (物損)	【けやきの部屋】 音楽療法後、お茶休憩のため場面転換。ご本人には席を立ててもらい椅子のみを移動。その際、ご本人の杖は椅子の肘掛け部分と座面の隙間(横後方)に立てたままで後方に移動、その後座っていただいた。着席と同時に持ち手部分がパチンと二つに割れた。	ご本人が着席する前に杖の位置や状態を確認していなかった。杖を立て掛けたまま椅子を移動した。	椅子を移動させる際は杖の位置や状態を確認する。利用者の私物の扱いに十分気をつける。
11/26 14:10	男性	事故 (転倒)	【けやきの部屋】 室内を歩いたり椅子に座ったりをくり返していたが、しばらくして他利用者と同じテーブル席に座る。付き添っていた職員も全体に向けた話を進めたところで、他職員は背を向けて記録入力。その時に「痛い」と声がして振り向くとご本人が床に倒れていた。	直前までご本人は覚醒しており、バランスを崩してしまったか原因はわからないが、職員が1名見ているので大丈夫だろうと背を向けてしまい、見守りが欠けてしまった。	利用者から目が離れる際は最小限とし、日頃から職員間の声かけを密にしておく。
01/18 09:35	女性	事故 (転倒)	【歩行移動中】 入浴利用のため、送迎バス降車後そのまま浴室に向かって歩いている途中。職員はご本人の左側を支えて付添っていたが、ご本人の足がもつれて崩れるように転倒。支えきれずに職員も膝をつく。	歩行時のふらつきがあるため、必ず職員が付き添っていたが、バス降車後から一気に浴室まで移動するには距離があった。	ご本人の歩行状態やペースを考慮し、送迎バス降車後は一旦休憩することが必要。長い距離は控える。
02/13 13:20	男性	事故 (転倒)	【けやきの部屋】 円形になり体操を開始。2人介助を要する利用者のトイレ対応で職員2人が退室。室内は職員1人になり、他利用者と話をしている際、ご本人が車椅子からずり落ちそうになるのが見えたが、支えられず膝から落ちてしまった。	ご本人はフットレストから足を下ろして座っていた。来苑時眠気が強いとの情報はあったが、この時点では姿勢良く座っており、閉眼していたことから動くことはないかと判断し職員2人が抜けた。1人対応になっても本人の動く様子はなく、職員は本人の正面で体操を進行していたが、隣の利用者と話している時に本人から目が離れてしまった。本人の動きの予測が出来ていなかった。	利用者が傾眠状態であっても目を離さない。予期しない事が起きるものだと常に意識を持ち、何かあった時にも対応できる距離感を考えて動く。職員一人で対応する場面もあるので、その際は全体が把握できるよう心がける。環境面においても、机があった方が良いのかなど利用者の安全が確保できるよう、適宜工夫して対応する。

◆苦情
なし